学力向上通信 Vol. 41 「三重の学-Viva!! (まなびば) 」

9月号



9

2018

発行者:三重県教育委員会

「学力向上緊急対策チーム」

連絡先: 研修推進課

TEL: 059-226-3572

※学-Viva:「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を活用し 子どもたちの学習内容の理解と定着につなげる取組を進めましょう

教科に関する調査では、全国の平均正答率を上回ったのは中学校数学 A にとどまりました。しかし、小学校では、昨年度に比べ国語、算数ともに A 問題で全国の平均正答率との差が縮まりました。また、中学校でも、小学校 6 年生時(平成 27 年度)の調査の結果と比べると、国語 A、数学 A、理科で全国の平均正答率との差が縮まりました。平均無解答率(問題に何も答えていなかった割合)も、小中学校合わせて 10 教科中 6 教科で全国平均よりも低く(良好な状況)、最後まで頑張ろうとする姿が見られました。

児童生徒質問紙調査では、「自分にはよいところがある」と回答している割合が増えていることや、意欲的に学習しようとする割合が全国に比べ高いことから、子どもたちに自尊感情や学習に対する意欲が育まれていることがうかがえます。このことは、学校と市町等教育委員会とが、家庭・地域と連携し、取組を進めてきたことによるものであると考えます。

一方、小学校国語、算数、中学校数学の B 問題では、全国との差が広がりました。経年的な課題である「文章を正確に読み取り考えを書くこと」(国語)や「割合・図形」(算数・数学)についても改善につなげることができませんでした。これまで様々な取組を進めるなかで、子どもたちの学習内容の理解と定着がどれぐらい図られたかの確認が十分でなかったと考えます。また、経年的な課題については、系統的・継続的な指導が重要であると考えます。

(( ) の数値は全国との差を示します。)

小学校 中学校 平均正答率 国語A 国語B 数学A 数学B 国語B 算数A 算数 B 理科 国語A 理科 二重唱 70.1 53.6 62.8 58.8 75.3 59.7 66.6 45.7 66.0 50.1 (-1.2)(-1.5)(全国との差) (-0.6)(-1.1)(-0.7)(-1.4)(-1.5) (-0.8)(+0.5)(-0.1)

W	平均無解答率	小学校					中学校				
4		国語A	国語 B	算数A	算数 B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
	三重県	2.98	3.89	2.03	8.26	1.23	2.89	3.01	2.84	11.55	4.96
(2	全国との差)	(-0.53)	(+0.13)	(-0.45)	(+0.33)	(+0.02)	(-0.26)	(0.00)	(-0.44)	(-1.06)	(-0.08)

## ●改善されている設問

(教科に関する調査の結果から)

(-0.3)

(+1.5)

## 【小学校理科】

③(1) モーターの回転を逆にするためには、どのような回路に直すとよいか、正しい回路を選択する

H27 小学校6年生とH30 中学校3年生の同一児童生徒の調査結果の改善状況

(平均正答率:三重県64.4% 全国との差+0.9)

# 【中学校数学】

(+1.2)

(-1.4)

A[9](1)比例  $y = 5 \times 0 \times 0$ 値とそれに対応する y の値の関係について正しく記述された文を選択する

(+0.9)

(平均正答率:三重県66.1% 全国との差+0.6)

## ●課題がある設問

## 【小学校算数】

A 7 (1) 円周率を求める正しい式を選択する

(平均正答率:三重県39.0% 全国との差-2.6)

「円周の長さ×直径の長さ」と解答している誤答の割合が高く、円周率を求める式と円周を求める式を混同していることが考えられます。言葉だけを覚えさせるのではなく、作業的・体験的な活動を通して、円周率が円周の直径に対する割合であることを理解させることが大切です。

## 【中学校国語】

A 8 四(2) 主語を明らかにして文を書く

(平均正答率:三重県 20.1% 全国との差-2.2) 主語について正しく理解していないことが考えられます。文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるようになっているかを常に吟味するよう指導することが大切です。

# 子どもたちの学習内容の理解と定着につなげる取組を!

子どもたちの「わかるようになりたい、できるようになりたい」という思いに応えるために、各学校においては、学習指導要領で求められる力を十分に身に付けられるよう、これまで以上に授業改善の取組を進める必要があります。

# そのために。

- ・調査結果を活用して、各設問の解答状況から子どもたちのつまずきがどこにあるか把握しましょう。
- ・学校全体で子どもたちの課題を共有し、各学年の教科指導(つまずかない指導、つまずきを克服するため の指導)につなげましょう。
- ・授業や補充学習、家庭学習での繰り返し指導の取組を進めるとともに、適時子どもたちの学習内容の理解と定着状況の確認を行いましょう。

☆正答率が低い問題は、授業や補充学習、家庭学習における繰り返し指導などによる理解・定着の徹底!
☆学 – Viva!!セットやワークシート、みえスタディ・チェックなどにより理解・定着状況を確認・把握!



子どもたちのつまずきを分析から把握するだけでなく、 、学習内容の理解・定着状況を確認する取組を徹底して行っていくことが大切です。

# 改善が見られた学校の取組

本年度の調査結果を昨年度と比較し、改善が見られた学校では、次のことが共通して行われています。

●全教員が課題を共有し、学校全体で学力向上の取組を進めています。

全国学調、みえスタディ・チェックの結果分析を行い、学校全体で課題を共有し、**改善をどのように行っていくか(どの場面で、だれが、何を、どのように)を明確に**して取り組んでいます。

#### 《実践事例》

・年間を通したつまずきの分析と改善

月 1 回は、必ず校内研修において、全国学調問題やみえスタディ・チェックで課題の見られた問題をとりあげ、どこにつまずきがあるのか、各学年でどんな指導を共通して行えばその改善につながるかについて協議し、教科指導を行っています。

・繰り返し学習を通して基礎基本の定着を図る

毎週水曜日の5時間目を○○タイムと位置付け、基礎的・基本的な知識・技能(特に計算と漢字)について、すべての子どもたちの理解・定着が図られるため繰り返し指導を行っています。

・研修担当を中心とした継続したデータ分析による授業改善

子どもたちの学習内容の理解・定着状況を確認する取組が徹底しています。研修担当を中心として 単元テスト等の結果を分析し、各担任と共有することで、どこに視点を当てて何に取り組むのかを明 らかにした授業改善を行っています。それぞれのテストや調査結果をデータ化することで学級や一 人ひとりの子どもが、どの単元でつまずいているのかが一目で把握でき改善につなげています。

# 「わかる・できる育成カリキュラム」を活用して 子どもたちに学習内容の理解と定着が図られる指導を!!



つまずきを克服するためには、系統的・継続的な指導を行っていくことが大切です。「つまずかない指導」「つまずきを克服するための指導」は、指導者が小学校 6 年間の学習内容のつながりを理解したうえで、「どの学習がつまずきやすいのか」「どの段階で身に付いていないのか」を把握し、それに対応した指導が重要となってきます。さらに、同じ内容でつまずかないように重点的な指導や繰り返し学習をすることが大切です。

これらのことをふまえ、三重県教育委員会では、指導資料「わかる・できる育成カリキュラム」(次ページで紹介)を作成しました。ぜひ、ご活用ください。

子どもたちのつまずきは、当該学年だけの問題ではありません。**それまでどのような学習を行ってきたか、** 低学年からの学習の積み上げはどうだったかを捉えて指導することで、一層の理解や定着が図られます。



低学年の学習が、高学年 の学習にどのようにつ ながっているの?

#### 解答類型2

誤答 2 (2.5%) 反応率 31.0%

# 平成 30 全国学調 A 8 の解答から考えてみましょう

ある会場に子どもたちが集まりました。

集まった子どもたち 200 人のうち 80 人が小学生でした。

小学生の人数は、集まった子どもたちの人数の何%ですか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

**1** 0.4% **2** 2.5%

**3** 340% 4 80% 解答類型3

正答 3(40%) 正答率 50.2%

200÷80 という立式による誤答

基準量と比較量を正しく捉えられていない

正答

問題で数字が出てきた順に、立式したと考えられます。

もとにする量がわからないと考えられます。

#### ● ● ●考えられるつまずきと、関連する学習 ● ● ●

「割合で比べる」という

意味が捉えられていな

1より小さい倍の意味 がわからず、小数倍の意 味が捉えられていない。

第5学年

小数のかけ算

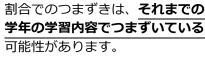
第4学年

簡単な場合について の割合

問題文を式に置き換え ることができない。

第3学年

□を用いた式



低学年からの学習の積み上げに よる**系統的な指導が必要**です。

# わかる・できる育成カリキュラム

三重県教育委員会は、子どもたちの算数・数学における経年的な課題である「割合」「図形」について、先生方が 小学校 6 年間の学習内容のつながりを意識して指導が行えるよう、指導資料**「わかる・できる育成カリキュラム」** (割合編) と(図形編)を作成し、小学校の全ての先生に 1 冊ずつ(中学校には学校に 2 冊ずつ)配付しました。

- ・平成 30 年度全国学調の子どもたちの解答から見えてきた理解の状況を掲載していますので、子ども たちのつまずきを把握しましょう。
- ・各学年の積み上げを「小学校算数科における『割合(図形)』の学習のつながり」(系統表)で確認しましょう。
- ・「『割合(図形)』につながる各学年における指導のポイント」は、下のような構成になっています。 指導のポイントを確認して、授業改善を進めましょう。

## たしかめプリントを活用すると、学習内容の理解・定着が確認できます!

つながる<mark>各学年</mark>における指導のポイント

・前学年までの学習内容や当該学年の学習内容がどこまで理解・定着できているかを確認するととも に、子どものつまずきを把握し、改善が図られていない学習内容は、授業、補充学習、家庭学習など での繰り返し指導により、確実な理解・定着につなげてください。

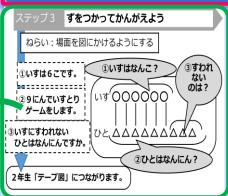
問題場面を簡単な図に表すことができる

「わかる・できる育成カリキュラム」(割合編)6ページから抜粋

それぞれの単元の 学習においてその 学年でめざしたい 姿を示しています。

「割合」につながる 学習内容を小学校第 1学年から示してい ます.

各学年に学習の「ス テップ」を設けて、 段階的に学ぶことが できるように構成し ています。



第1学年

# **指導のポイント**

#### 問題を単文でたしかめながら、順を 追って図に表現させて立式させる

★ノートに図をかく活動を取り入れ、問 題文を「いすは6こです。」「9にん 一へこういったりことす。」「すにんでいすとりゲームをします。」など、 単文に区切り、子どもたちとやりとり

単文に区切り、子ともだらとヤクとり をし、問題の内容を確かめさせながら 図に表現させましょう。 ★立式させるとき、図で問題を一つずつ 順に確かめながら「あわせて」「ぜん ぶで」「のこりは」などの言葉に着目 させましょう

【たしかめプリント】 ・1ねんせい「ステップ3」(P17)

#### ☆指導のポイント

学習の中で着目させたい内 容、具体的な活動例、発問例 など示しています。

## ☆たしかめプリント

巻末に、各ステップの指導 のポイントに対応した「た しかめプリント」を掲載し ました。

ステップ3								
	あかい かみが 6まい あります。 しろい かみは おおいです。しろい かみは なんまい ありますか。							
	1 ずの つづきを かきましょう。							
	あかっしまい							
	US (A)							
V	まい							

#### ●より理解・定着を図るためのツールを授業改善サイクル支援ネットで提供しています●

授業改善サイクル支援ネットには、冊子として配付した「育成カリキュラム」には掲載されていない「割合スペシャル」「計算マスター」 「図形のたしかめプリント」などのたしかめプリントを掲載しています。こちらも、ぜひご活用ください。

# 学力向上 に向けた

# 具体的な実践事例

# 【事例31】いなべ市立丹生川小学校

# 心を豊かにする道徳の授業

学習指導要領の解説では、道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな 体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために極めて重要なものであると記されています。

いなべ市立丹生川小学校では、平成28年度から道徳の授業づくりに関する研究を進めています。今年度から県の道徳教育アドバイザーによる指導助言を継続的に受けるなど研究を更に進め、子どもの道徳性の向上に力を注いでいます。

道徳科の研究を進めることで、子どもが道徳性を養うとともに、自分の考えを詳しく表現する力の育成を目指しています。

# 丹生川小学校の学校の取組

# 研究授業を行い、道徳教育アドバイザー河合宣昌先生から 指導助言を受けています

- ■価値理解(道徳的価値は大切であること)
- ■人間理解(道徳的価値は大切であるが、実現は難しいこと)
- ■他者理解(道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方 <mark>③ 「ぼく」と「お姉さん」の思いの違いを</mark> があること)を意識し自分との 関わりで考えることが重要。
- ■記述されている行動から、 考えや気持ちを問うようにする。
- 授業の基盤となる学級経営が大事。

## 授業実践例

# 6年「本屋のお姉さん(A正直、誠実)」(光文書院)

- ① 「誠実というのは、どういうことだろうか」
- ② 教材の範読を行う。
- 比較する。(短時間で教材全体を捉える)
- ④ 「僕の心の中が温かくなったのはどうして だろうか。」(中心発問を話し合う)
- ⑤ 振り返りを記述する。

# 学力向上に向けた具体的な取組

## ~学校全体で、一つの授業の指導案を考える取組を行っています~

一つの授業を各教員が共通して考えることで、本校の授業パターンを教員全員で作ることができます。各教員の 授業力向上も意図した取組です。

低学年部で考えた指導案

1つの指導案に 作り上げる。



【5年生】研究授業の実施



高学年部で考えた指導案

中学年部で考えた指導案

【他の学年】 考えた授業づくりの方法を、 自分が行う道徳科の授業に応用が可能。

- ① 各教員が「自分ならどうするか」という視点で指導案を持ち寄る。 (全教員が自分事ととらえ、授業について考え、議論している。)
- ② 異なる学年部の教員が授業への感覚の違いを出し合うことで、指導案に深みを増すことを目指す。

## 成果



- 道徳科の授業で、子どもの発言が圧倒的に増えています。
- ② 発言の回数が増えただけでなく、自分の思いや考えを長く語れる ようになってきています。
- ・仲間が発言したことについて、自分の体験を関連させて語れるよ
  ・ うになってきています。
- 4 道徳科の授業での語る経験が、国語科の物語文の読み取りの授業 に生かされるなど、他の教科に取組の成果が広がっています。



#### **●●●●● いなべ市立丹生川小学校長からのコメント ●**

平成28年度、道徳の教科化に向けて校内研修を開始しました。まずは先進校に学ぶことに力点をおき、先進校の校 長を講師として招聘したり、複数の公開授業に参加したりして、授業論など道徳の基礎を学びました。それらを基に、 全教員で試行錯誤を繰り返しながら、意欲的に授業づくりに取り組みました。昨年度は、市教委指導主事の力をお借り しながら、子どもたちが深く考える道徳を目指して、本校の道徳授業スタイルを追究してきました。今年度は、道徳的 諸価値の理解を基に、豊かな心を育む道徳の授業づくりに取り組んでいます。河合先生からアドバイスをいただきなが ら、子どもたちが主体的・意欲的に取り組める授業を追究していきます。